

我々引率者も1日目は生徒達の事を心配しながらもこの機会を利用し、市内の見学と買い物など有意義な時間を過ごしました。2日目には一軒のホストファミリーからバーベキューのお誘いを受け参加することに。何とそこには他のホストファミリー5軒が参加しており、鹿の肉をいただくなど楽しい時間を過ごすことが出来ました。

6. ホロコースト記念博物館にて 8月18日(月)

2日間ホストファミリーとの生活をどのように過ごしたのか生徒達の顔を見るまでは心配でしたが、どの生徒も笑顔でそれぞれが過ごした様子を楽しく友達と話す姿に安堵しました。

この日もホストファミリーと一緒に午前中はジェファーソン記念館とアメリカ歴史博物館の見学、ホストファミリーの参加が多く、バスの中もほぼ満席、生徒達も2日ぶりに会う友達との賑やかな会話が車内の中で弾んでいました。

この日の午後は今回の研修の大きな目的の一つであるホロコースト記念博物館での研修、厳重なセキュリティチェックを受け中へ。最初は当時15歳でナチスドイツの迫害を受け、強制労働をさせられながらも幸いにも生き延びることができたマリー氏(87才・男性)の経験談、当時のユダヤ人に対するナチスドイツから受けた悲惨な迫害の様子を聞くことが出来ました。そして生徒からの質問、「イスラエルでの紛争をどう思いますか。」との質問に、氏からは、「戦争は良くないことである。」と言われたものの明確な答えを聞くことは出来ませんでした。その後、施設内の見学、当時の悲惨な様子を写した写真等の展示物やフィルム映像は衝撃的なもので、直視出来ないような映像が多々あり、同じ人間同士がここまで出来るのかと、恐ろしさを感じながら次に進むと、無数の靴が敷き詰められた部屋。何を意味するのかは英語力の無い私には理解できませんでしたが、虐殺される前に脱がされた靴であるなら、なぜ靴までと、一層残酷さを感じたのは私だけだったのでしょうか。そしてさらに進むと、杉原千畝氏の写真と名前のプレートを発見。多くのユダヤ人を救った人々としてそこに載る杉原千畝氏、迫害が国の方針として行われていた時代に非難することは勇気がいることです。そんな時代に杉原千畝氏の成し遂げた勇氣ある行動は、悲惨な展示物を見た後では、なおさら如何に偉大であったかを多くの生徒が改めて認識し誇りに思えた事ではないだろうかと思いました。

7. ホームステイの終わり、そしてニューヨーク 8月19日(火)

今日の朝でホストファミリーとはお別れ、生徒達の表情はホームステイが無事に終わったという安堵感とホストファミリーとの別れの淋しさが交錯し戸惑いの表情、それぞれの別れを惜しむ光景を見ながら、生徒を一人の家族として受け入れお世話してくださったホストファミリーの方々に感謝、感謝です。

8時00分 ホストファミリーに見送られ列車で次の訪問先ニューヨークへ。車窓にはニューヨークのビル



群が現れ始め、ついに憧れのニューヨークに13時40分到着。すぐさま専用バスに乗り、ニューヨーク2日間の滞在中は市内専門のガイドとして中澤さんによるユーモアをまじえた解りやすい説明を聞きながら、メトロポリタン美術館、そしてエンパイヤーステートビルの見学と、ここでもセキュリティチェック(この研修で何回ズボンのベルトを外したのかなあ~と思いながら)を受ける。エンパイヤーステートビルの屋上からため息の出るほどのニューヨークの摩天楼を眺め、18時00分宿泊先となるホテルに到着しました。

8. ニューヨーク2日目 8月20日(水)

ニューヨーク2日目、今日はアメリカのシンボル、自由の女神像の見学。その後、車窓からの見学予定であったグラウンド・ゼロを、時間に少し余裕ができたことからバスから降りて見学出来ることとなりました。再開発が進み、すべてが完成すると、記念碑と博物館、そしてそれを囲むようにタワーが立ち並ぶそうです。建設現場の西側には一般に公開されている記念広場があり、崩壊したツインタワーの位置に2つのプールが